

平成22年度 年報

駒ヶ岳・大沼



【平成22年12月 モデル事業地における検討委員会開催の様子（七飯町／吉野山国有林）】

森林環境保全ふれあいセンターは、

国有林野を活用し、自然再生や生物多様性の保全に取り組むNPOや森林環境教育に携わる教育関係者等の活動を技術的に支援する組織として、平成16年4月に設置されました。



国民の森林・国有林

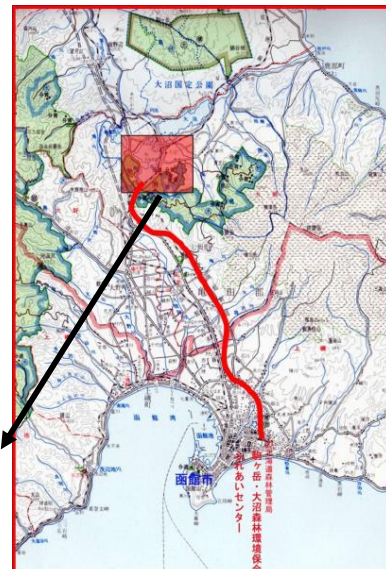
林野庁 北海道森林管理局
駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター

大沼地域自然再生等モデル事業の取り組み

モデル事業地は、大沼国立公園エリアに所在し、漁業関係者から水質保全、観光関係者から景観の維持向上、自然保護関係者から鳥獣生息環境の維持向上等が強く求められているなど、環境保全や森林整備に係る関心や期待の高い地域となっています。

このため、モデル事業の推進について、自然保護関係者や民間ボランティア団体等の代表者で構成する検討委員会を開催し、モデル事業地の箇所の選定、森林の取り扱い、事業の推進方法等についてのグランドデザインを作成するとともに、地域等が大沼地区の国有林に求めているニーズをモデル事業に反映するよう努めることにしています。

「大沼地域自然再生等モデル事業」は、地域住民等と連携し、**「多様性のある森林への再生」**と当該地及び近接地において**「森林環境教育の推進」**を主とし、取り組みを進めることとしています。



- ＝ 検討委員会 ＝
- 平成16年度
グランドデザイン作成ために
3回実施。
 - 平成17年度～平成22
年度「グランドデザイン」に
基づく事業内容の検証
及び検討のため年に2回
実施。

☆ 「大沼自然豊かな森づくり協議会」の開催

平成22年4月26日（月）、南北海道大沼婦人会館（七飯町）において、20名の委員が参加し第6回「大沼自然豊かな森づくり協議会総会」を開催しました。宮崎会長を議長に、平成21年度の実行内容、22年度の計画と実行体制について事務局より提案の後、討論を行いました。

委員からは、「多様性のある森林への再生の取組を更に強化すべき」、「各種植生調査の継続化を」などの意見が出されました。併せて、役員体制については全員が再任され、今後も会長を中心として、自然再生等の各種事業実行に当たり、お互い協力・連携を図りながら取り組むことを確認し総会を終了しました。

★当協議会は、大沼地域自然再生等モデル事業のグランドデザインに基づき、森林の再生活動を行うことを目的として平成17年4月に組織されたものです。



協議会参加団体等名
大沼漁業協同組合
大沼町内会連絡協議会
大沼の水と緑を守る会(NPO)
大沼マイルストーン22(NPO)
北海道森林鳥類調査室クマゲラ研究会(NPO)
函館地方国有林退職者緑の募金推進協議会
21世紀の道南の森林づくり事業実行委員会
個人会員及び関係行政機関

☆ 多様性のある森林への再生

大正14年植栽ドイツトウヒ人工林と昭和56～58年植栽トドマツ人工林、及び昭和27年度植栽カラマツ人工林の22.90haの森林を、地域ニーズを踏まえた生物・水質・景観など多様性のある森林へ誘導します。【具体的には、周辺の天然林を参考とした森林へと育成します】



「多様性のある森林への再生」箇所において、様々な取り組みを行っています。平成22年度の主な実施内容は、次のとおりです。

「自然環境モニタリング調査」の実施

平成22年6月～2月にかけて、多様性のある森林への再生区域である吉野山事業地を対象に、森林推移の状態に関する情報を的確に把握・分析するとともに、森林に生息する野生鳥獣の生息の調査を行い、多様性のある森林への再生を図る有効性について検証を行う基礎資料の収集を目的とした「自然環境モニタリング調査」を実施しました。今後は、収集した貴重な資料を基に、更なる自然再生事業の展開へと繋げていきます。



「下刈作業」の実施

平成22年7月15日（木）、大沼地域自然再生等モデル事業の「多様性のある森林への再生箇所」において、公募により参加した一般参加者、大沼自然豊かな森づくり協議会のメンバーなど総勢28名により、下刈作業を実施しました。

作業地は吉野山国有林（七飯町）のドイツトウヒ伐採跡地で、平成18年にミズナラやトチノキの実を播種した箇所を実施。苗木は2メートルを超える雑草に覆われており、参加者は雑草をかき分けて苗木を探し、慎重に鎌を振り、約2時間心地よい汗を流しました。



「国際ワークキャンプ」の受け入れ

「国際ワークキャンプ」とは、世界中から集まった若者が一緒に生活し、「森林の手入れ」、「動植物の保護」、「有機農業の支援」、「学校の建設」などを行う「国際ボランティアプロジェクト」で、世界約100か国で、約3,000箇所行われています。日本では国際ボランティアNGOのNICE(ナイス)が「国際ワークキャンプ」の企画、運営、参加者の募集等の事務を行い、日本各地には実施する協力団体があり、北海道では函館市にある「北海道国際交流センター」が受皿団体になっています。

当ふれあいセンターでは、吉野山国有林(七飯町字大沼)で実施している「大沼自然再生等モデル事業」において、自然再生等への取組の一環として、各種森林ボランティア活動の機会を提供しています。今年も7月12日から9月30日までの期間、アメリカ、フランス、イギリス、日本など6カ国、20代を中心とした若者が、ここ大沼に集合しました。

当センターが担当する”森林ワーク”では、7月14日を皮切りに18日間、下刈、枝払い、保育間伐、歩道修理などの作業を実行して、ワークキャンプの青年達をサポートするとともに、また共に作業で汗を流しながら交流を図りました。



キャンパーに概要説明



参加したキャンパー

PHOTO

下刈作業



シカネット作業



保育間伐作業



歩道修理作業



検討委員会の開催

平成22年12月13日(月)に、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所(吉野山国有林2133林班)において、各委員21名の参加のもと、「第1回大沼地域自然再生検討委員会」を開催。議題は今年度実施した「自然環境モニタリング調査」の概要報告として進行しました。

この調査は、植生・鳥類・野生動物についての項目で実施し、当日は現地において、実際に調査した箇所を確認しながら説明したあと、意見交換を行いました。今後は、今回の調査結果や各委員から出された貴重な意見を、モデル事業に最大限反映させるよう取り組んでいきたいと考えています。



保育間伐の実施

平成23年3月14日(月)、大沼地域自然再生等モデル事業の箇所(吉野山国有林2133林班)において「大沼自然豊かな森づくり協議会」による、ボランティア団体約28名の参加により、人工林の保育間伐を実施しました。

作業地は昭和57年度に植栽されたトドマツ人工林(面積0.52ヘクタールの一部)で行い、参加者は「多様性のある森林への導」という目標に向け、それぞれが心地よい汗を流しました。



☆ 森林環境教育（樹木博士認定会）の推進

西大沼国有林の**樹木博士認定常設コース**（平成16年10月オープン）を拠点とし、森林に対する関心と理解の醸成を図る活動を実施しています。

具体的には、森林環境教育の指導者の養成等のための**樹木博士認定会**の開催や研修会等を実施し、森林環境教育を推進します。また、多様性のある森林への再生活動（吉野山国有林）においても森林環境教育を実施することとしています。



樹木博士認定会とは
 樹木の名前や識別方法を学習した後、樹木名を答える試験を行うもので、それをきっかけとし、森林に親しんでもらうことを目的とした森林環境教育（アウトドア活動プログラム）のひとつです。

樹木博士認定コース
 子ども樹木博士認定活動推進協議会（平成12年設立 現会長：木平勇吉東京農工大学名誉教授）のプログラムを採用し、平成16年には、この活動を地域に広めることと森林環境教育に関する指導者の養成を図るための活動の拠点として、誰でもいつでも利用できる「常設コース」を大沼国定公園内の西大沼国有林（七飯町）に開設し、対象者を子ども達だけではなく一般にも広げ、毎年**定期的（年4回）**に開催しています。



進め方
 1時間程度の樹木の説明を受けた後、樹種名（20～30種）を答える試験を行い成績に応じて段級（**最高位は10段**）を与え、認定書を授与します。



コース概要

- ◆ コースの距離 事前学習コース [450 m]
 テストコース [390 m]
 周 遊コース [2050 m]
- ◆ 試 験 樹 種 46種（ブナ・ミズナラ・スギなど）



左写真はセンターで作成した「樹木ガイドブック／全70ページ」（平成23年3月発行）
 このガイドブックにより、樹木の説明を行います。



平成22年度の樹木博士認定会の取り組みについては、公募により4回（5月，7月，8月，9月）の定期開催を実施しました。また、より多くの挑戦者の参加を期待して、函館市教育委員会で取り組んでいる生涯学習講座「HAKODATEまなびっと広場」に参画し、選択科目の一つとなっています。

定期開催の開催結果の内容については、次のとおりです。

第1回開催



第1回は、対象樹木を20本を選定し、スタートしました。

第2回は、新たに2名の方が10段を取得されました。

第2回開催



第3回開催



第3回は、時折雨の降るあいにくの天候の中での開催となりました。



第4回は、全樹種の46本に挑戦する参加者もいました。

第4回開催



本年度の定期開催の参加者総数は46名であり、中には10段を取得された参加者も数人現れるなど、賑わいがありました。

● 定期開催結果

回数	認定会日時	参加者	内 訳
第1回	5月30日（日）10：00～12：30	11人	子ども0、大人11
第2回	7月4日（日）10：00～12：30	15人	子ども1、大人14
第3回	8月1日（日）10：00～12：30	11人	子ども0、大人11
第4回	9月12日（日）10：00～12：30	9人	子ども0、大人9

● その他開催

その他開催（江差北小学校グリーンスクール・日吉ヶ丘児童館森林教室ほか）	118人	子ども71、大人47
-------------------------------------	------	------------

● 樹木博士認定状況

22年度末 累計	1,723人（平成12年度の旧函館分局から行ってきた計です）
----------	--------------------------------

☆ 森林づくり塾2010 開校

目的

森林の役割や森林づくりの基礎を学び、実際の森林作業を体験することにより、森林作業の技術の習得、また、森林の中での楽しみ方を体験し、理解を深め、**森林ボランティア作業への参加意識の醸成と森林環境教育のリーダー的存在となりうる人材の育成**を目的としています。

森林づくり塾の取り組みについては今年度で4年目となります。参加者は公募を行った結果、函館市近郊から定員の36名となり、森林作業を中心とした全6回の講座を実施しました。各講座の実施内容については、次のとおりです。

1回目	5月23日	カリマ国有林	開講式 植樹体験
2回目	6月13日	カリマ国有林	下刈体験(1回目) シカネット設置 鎌研ぎ体験
3回目	6月27日	恵山国有林	草本類の観察会 森林環境教育講座
4回目	7月25日	カリマ国有林	下刈体験(2回目) 鎌研ぎ体験 森林環境教育講座
5回目	9月5日	軍川国有林	枝払い・保育間伐体験
6回目	10月3日	北斗市外	種苗農園見学会 ボランティア教育講座 閉講式

第1回講座

「美しい森林づくりの集いin 大沼ー北海道洞爺湖サミット開催記念植樹祭」に併せて実施し、塾生には植樹(植付)の基礎知識について、体験を通して学習してもらいました。

当日は、塾生含む総勢300名が参加して開催され、面積約0.8ヘクタールの植樹会場にミズナラの苗木約1,700本を一本一本丁寧に植えました。



第2回、第3回講座

第2回は、「下刈作業・シカネット設置」を実施して、その目的・効果などを学習。第3回は、講師に北海道アウトドアガイドの自然観察指導員 木村マサ子さんを招き「草本類の観察会」を恵山国有林において実施し、それぞれ心地よい汗を流しました。



第4回、第5回講座

第4回は、斎藤 晶 樹木医を講師に招き「森林環境教育の基礎講座」、また前々回同様「下刈作業」を実施。第5回は、森林体験としてトドマツ人工林の「枝払い」・「保育間伐」を実施して、その目的・効果を学習しました。



第6回講座

第6回(最終)は、北斗市にある鈴木種苗農園において見学会を実施。また、渡島総合振興局の方を講師に招き「森林ボランティア基本講座」と題して、森林ボランティア団体の現状や参加の仕方などの講義も実施しました。

最後には、塾を締めくくる閉講式・修了証書の授与を行い、本年度の全講座を終了しました。



☆ 自動撮影装置による野生動物撮影

当センターでは、大沼周辺(七飯町)の森林における野生動物(中大型哺乳類等)の生息調査を実施しています。

- 調査目的・・・野生動物の生息状況を把握することにより、自然環境管理・森林生態系などに活用するため
- 調査方法・・・自動撮影装置(カメラ)による撮影(焦電型赤外線センサーに反応する動物を撮影)
- 調査時期・・・年2回(夏、秋)実施



PHOTO



エゾシカ



ツグミ



ヒグマ

☆ その他 (森林環境教育 等)

🌲 「美しい森林づくりの集い」植樹祭開催

平成22年5月23日(日)、21世紀の道南の森林づくり事業実行委員会と北海道森林管理局 函館事務所主催による「美しい森林づくりの集い in 大沼ー北海道洞爺湖サミット開催記念植樹祭」が、七飯町のカリマ国有林において、総勢300名参加のもと開催され、当ふれあいセンターもスタッフとして参加しました。

今回の植樹祭は、平成20年7月に開催された北海道洞爺湖サミットにおいて、テーマの一つに「環境・気候変動」が論議され、この中で森林整備は重要な課題と位置づけられたことを受け、その合意内容に鑑み、森林づくり活動を通じた一般市民参加の植樹を計画したとともに、併せてこの場所については、平成16年の台風18号により風倒木被害を受けた箇所となっており、森林の早期回復を願い昨年引き続き実施されました。

当日は、天候に恵まれる中、参加者はミズナラの苗木約1,700本を、クワやスコップを使用し、また保育園児達は園芸用シャベルを使用して、面積約0.80ヘクタールの植樹会場に一本一本丁寧に植え、心地よい汗を流しました。

植樹の後は昼食をとりながらイベント会場において行われた、ブルーレイバンクレーション(代表 小野 昭一)による「ラブフルート(木製の手作りフルート)演奏」では、森の中で奏でられたフルートなどの軽やかな調べにより参加者の心に感動を与え、植樹祭をより一層盛り上げてくれました。

今日の植樹体験を通じて参加者の方々には、森林の大切さや必要性を十分に理解してもらえることができ、盛会のうちに集いが終了しました。



🌲 渡島東部森林室主催「森への誘い講座」をサポート

平成22年5月26日（水）、渡島総合振興局東部森林室（函館市柳町）主催「森への誘い講座」が、七飯町の樹木博士認定常設コース（西大沼国有林）で開催されました。この講座は、年間8回の基本講座で構成されており、今回はその第2回講座「新緑の森を観察しよう！」と題して行われ、当ふれあいセンターに樹木博士認定会の依頼があったところです。

当日は、時折雨が降るあいにくの天候にもかかわらず、参加者（37名）の熱心に勉強する姿勢や、自然を満喫し楽しむ風景が見られるなど、それぞれが充実感をもって終了することができました。



🌲 大沼ふるさとの森づくり推進委員会主催の講座をサポート

平成22年6月5日（土）、大沼ふるさとの森づくり推進委員会（七飯町字東大沼）主催「大沼コミ森の日ー森で遊び、森で働く日ー」が、七飯町の大沼ふるさとの森（流山温泉周辺）で開催され、当ふれあいセンターは、講座のサポート役として参加しました。当日は、一般公募で集まった35名が、4つに分かれたプログラムにそれぞれ参加し、当ふれあいセンターはプログラムの中の「下刈り隊（下刈り作業）」を担当することになりました。この「下刈り隊」は、2年前にミズナラを植林した箇所、7名の参加者を対象に行われ、参加者はミズナラの成長をたしかめながら約90分、心地よい汗を流しました。



🌲 はこだて花と緑のフェスティバル2010に参加

平成22年6月19日（土）・20日（日）、JR函館駅西口横（大手町）において、「はこだて花と緑のフェスティバル2010」が開催され、当ふれあいセンターはその両日に参加し、森林環境保全ふれあいセンターの活動内容、自然再生モデル事業及び森林環境教育の取組内容、また森林の植物写真を「パネル展示」で紹介したほか、「巣箱作り（木工品）」体験も併せて行いました。

当センターのブースでは、パネルを見学して一緒に写真を撮る人や、また、巣箱作り体験においては、用意したキットはあっという間になくなるなど、たくさんの方々で賑わいを見せ、人々と交流する中でも有意義な一日となりました。



🌲 檜山森林管理署（厚沢部町）主催「グリーンスクール」の講座をサポート

平成22年6月28日（月）、江差北小学校（全学年約120名）を対象とした、檜山森林管理署主催「春のグリーンスクール」が開催され、当ふれあいセンターはその講座のサポートを行いました。

実施した内容は海岸林の清掃を行った後、低学年が「森林探検」、中学年が「海岸林の勉強会」、高学年が「樹木博士認定会」とそれぞれ分かれて、各担当者指導のもとに作業を行い、約2時間の行程で実施しました。当ふれあいセンターが担当した「樹木博士認定会」では、好成績収める生徒達が多数をしまして、樹木の知識を深めてもらうことができました。

また、10月22日（金）には「秋のグリーンスクール」も開催され、当ふれあいセンターはクラフトづくりを担当し、生徒達は思い思いの作品を完成させていました。



🌲 職員を対象とした希少野生動植物の勉強会をサポート

平成22年7月23日（金）、渡島森林管理署（八雲町）において、署員を対象とした「希少野生動植物」の勉強会が実施され、当ふれあいセンターは、この勉強会の講師（サポート）役として当日参加しました。

希少野生動植物については、生物多様性の保全をはじめとする公益的機能の維持増進の重要性から、日常の業務全般に渡って情報収集・把握する必要があります。このため、あまり馴染みのない、この分野について少しでも知識が高められればということで、国有林の現場を直接管理している管理署職員を対象に勉強会が実施されたところです。当日は21名の署員が出席する中、希少植物の内容を中心に、スライドを用いて説明、また、最後には質問に答える形で約1時間講師を務め、勉強会を終了しました。



🌲 日吉ヶ丘児童館の森林教室をサポート

平成22年8月6日（金）、函館市日吉ヶ丘児童館主催のクラブ活動が、親子含む22名が参加して行われ、当ふれあいセンターは3名の講師を派遣し、講座のサポートを行いました。参加者には、児童館構内に植林されているクロマツやミズナラなど11種類の樹木を対象にした「樹木博士認定会」と「木工品（エコはし）づくり」をそれぞれ体験してもらいました。「認定会」では、学習の成果が発揮されて好成绩の方々が多数を占め、「エコはしづくり」では、カッターを上手に扱い、オリジナルの「エコ（MY）はし」を完成させました。



🌲 児童館の生徒を対象にした森林教室を実施

平成22年9月26日（日）、函館市上湯川児童館（辻口 館長）主催の親子体験活動（森林について知ろう）が、樹木博士認定コース（七飯町／西大沼国有林）と大沼国際セミナーハウス（七飯町字大沼）を会場として開催され、当ふれあいセンターは4名の講師を派遣し、活動のサポートを行いました。

当日は秋晴れの爽やかな天候に恵まれる中、午前中は樹木博士認定コースにおいて認定会を行い、13種類の樹木について、葉の色や形、手触りなどの特徴をたしかめながら、真剣な表情で学習していました。結果は全問正解者が多数であるなど、学習の成果が表れ笑顔で認定書（賞状）を受け取る表情が印象的でした。

午後からは場所をセミナーハウスに移して、木材などを身近に感じてもらうことを目的に、巣箱・クラフト・押し葉（しおり）づくり体験を行いました。巣箱づくりでは、慣れない手つきながらもトンカチを使って、みごとに釘に命中させて喜んだり、クラフトづくりでは、トチノキやドングリの実、木の枝を使ったみごとな作品を作ったり、また押し葉づくりでは、個性豊かで色鮮やかな作品に仕上がったりと、それぞれが熱心に取り組み、予定の作業を終えることができました。

最後には生徒さんからお礼の言葉を頂き、職員にとっても充実した有意義な一日となりました。



🌲 道民森づくりネットワークの集いに参加

平成22年10月23日（土）、道庁赤レンガ庁舎前庭（札幌市中央区）を会場に「道民森づくりネットワークの集い」が開催されました。当センターからは、今年度実施した「大沼地域自然再生等モデル事業」「森林環境教育」などの取り組みについてパネル展示をして、大勢の方々とふれあうことができました。



